

## 1 調査事件

民生福祉、保健行政及び教育行政の充実について

## 2 調査概要

### (1) 高松市（人口 418,122人）

#### ア 学校給食センターについて

高松市は、中央部の児童生徒数が著しく減少するとともに、校舎などの老朽化が進んでいたことから、これらの課題解決のために小中学校の適正配置などについて審議会に諮問している。平成16年8月の答申の中では、小中学校の適正配置を進める方向性が示される一方で、学校給食の充実や学校敷地の有効活用を図るため、児童生徒などを対象にした食育や衛生管理について研修する機能を持った学校給食センターの提案があり、1日7,000食の調理能力を有する朝日新町学校給食センターが整備され、平成20年9月から稼働している。

建設場所については、対象校（市内中心部の小中学校計11校）を決定した上で2時間以内の喫食が可能な場所に整備されている。当該施設の特徴としては、水はねによる汚染を防止する完全ドライシステムを導入しており、衛生区画は明確に区分され、温湿度管理による衛生管理を徹底していることや、最新の設備・機器の導入により調理作業の効率化と調理や食材の多様化を図るとともに、見学室スペースや研修室、実習室などを設け、見学や体験を受け入れていることが挙げられる。これらにより、安全で衛生的なより質の高い給食の提供を行い、市内全体の食育の拠点としても活用している。また、食物アレルギーへの対応については、特別調理室を整備しており、除去食による対応を行っている。

このほか高松市では、学校給食会が契約している地元業者から一括して食材を調達しており、地産地消の推進にも取り組んでいる。

現在、市内の多くの調理場の老朽化が進行していることから、食育の推進を図り、安定した学校給食を提供するため、市内全域の調理場の整備が喫緊の課題となっている。

#### イ 高齢者居場所づくり事業について

高松市は、おおむね65歳以上の高齢者が気軽に集うことができる建物等のスペースを、介護予防や健康増進、地域のボランティア活動など、さまざまな地域活動の拠点とする高齢者居場所づくり事業を実施している。この事業では、高齢者の心身機能の衰えに伴う閉じこもりや孤立を

防ぐため、高齢者だけでなく子どもたちを交えた世代間交流の場として、高齢者が住みなれた地域で自分らしい暮らしを継続できる地域包括ケアの実現を目指している。もともと77歳、88歳などの節目に支給していた敬老祝金を廃止し、その財源をもとに高齢者のための代替事業として平成26年度から開始した。初年度から平成28年度までの3年間で、おおむね徒歩圏内に1カ所を目安とし、300カ所程度の開設を目標に設定したが、平成29年度末現在で244カ所の開設となっている。

なお、一定の条件を満たした事業内容に対しては、高松市から助成金を交付しており、平成26年度から平成28年度までの3年間で施設整備助成金（開設時1回のみ。施設改修や備品購入として上限20万円）、居場所の実施回数にあわせて交付される運営助成金（運営に係る人件費、施設整備は対象外）、小学生以下の子ども5人以上と1回当たり1時間の交流を行った場合には、年30回を上限として1回当たり500円を運営助成金に加算する子ども加算金を交付している。

この制度により整備された施設は、現在、元気な高齢者や子どもが集う多世代交流拠点として位置づけられており、今後は元気な高齢者が虚弱な高齢者を支援する場所も併設することで多世代が交流する拠点として地域に根ざしたコミュニティスペースを目指している。

## (2) 松山市（人口 510,809人）

### ア まちなか子育て・市民交流センターについて

松山市は、過去に商店街を訪れた方にアンケート調査を行った結果、休憩所や授乳スペースなど、快適に過ごせる場所が欲しいという意見や、イベントができる場所が欲しいという意見が多くあり、中心市街地の活性化及びまちなかの保育需要への対応のため、国の交付金を活用し、平成24年3月に松山市まちなか子育て・市民交流センター（愛称：まちコミュスポット「てくるん」）を開館している。「てくるん」では、保育や託児、多目的交流スペースを活用した市民交流及び情報発信事業を行っており、そのほかにもキッズスペースや授乳スペースがあり、また、ベビーカーや車椅子、買い物カートの貸し出しも無料で行っている。施設の管理については、指定管理者制度を導入している。

開館以来、利用者は順調に増加し、年間10万人を超えている。また、「てくるん」付近の商店街においては、家族連れの通行量が増加しており、商店街の回遊性の向上にもつながっている。

課題としては、家族向けの店舗が少ないことなどが挙げられており、

今後は子育て世帯のニーズに応じた店舗をふやすなど、商店街のさらなる活性化に力を入れていく必要がある。

#### イ 子ども総合相談について

**松山市**では、いじめや不登校等の背景に虐待や保護者の精神的疾患、経済的問題等が要因であることが多く、相談内容も複雑化するなど取り巻く環境が変化してきたため、平成21年4月、社会的自立を目指し、児童の生命と幸せを最優先とした子ども総合相談センター事務所を開設している。教育と福祉の融合、ゼロ歳から18歳までの継続した支援、子どものみならず保護者も含めた家庭全体の支援及び子どもに適切なかわりができる保護者や地域を育成する予防的な支援を基本方針とし、子どもに関する相談支援機能を集約化することで相談のたらい回しを防ぎ、保護者の相談対応や支援を同時に行うことができる体制を構築している。

しかし、学校や家庭だけでは対応できない複雑な事案が年々増加し、迅速かつ効果的な対応を進める必要が生じたため、平成26年4月、教育と福祉それぞれの相談機能を統合する「子ども・子育て担当部」を新設し、その下に子ども総合相談センター事務所を設置することで相談窓口の一元化を図った。

子ども総合相談の設置は、相談窓口のワンストップ化につながり、市民が迷わず相談できるなど利便性が向上した。相談件数は、平成26年度は約2,300件だったものの、周知啓発によって平成29年度には約2,800件と年々増加してきており、個々の状況に応じた迅速かつ適切な対応を行うため、対応する職員のさらなる専門性の向上や、関係部局、関係機関との連携体制を強化する取り組みが重要となっている。また、相談窓口では個々の状況に応じて教育委員会や学校、警察、医療機関などの関係機関と連携しながら適切な支援に努めているが、今後は私立の小中学校や高等学校との連携をより強化していくことが課題となっている。

#### ウ 放課後子ども教室について

**松山市**は、放課後子ども教室の前身である地域子ども教室を平成16年度から平成18年度まで実施していたが、国が「放課後子どもプラン」を創設したことに伴い、平成19年度に放課後子ども教室を開設した。当初の開設は8カ所だったものの、現在は33カ所開設しており、小学校の余裕教室や公民館の部屋等を活用している。運営は、小学校ごとに地域住民と学校関係者などで組織された実行委員会に委託して行っており、地

域住民が受け持つことで子どもたちの居場所をつくる環境づくりが実現されている。参加費用は傷害保険料のみ児童の保護者が負担することとなっている。近年特別な支援を必要とする児童もふえているが、それぞれの子ども教室の判断により、可能な範囲で受け入れている。

各教室では、勉強、スポーツ、文化活動及び体験活動の4つの活動を行っており、教室ごとに創意工夫を生かした取り組みを行っている。ほかにも、大学や中学校の先生などを講師としての理科実験や、ALTの先生による英会話教室など、特色のある活動を実施している教室もある。

今後の課題としては、スタッフや開設場所の確保、スタッフの研修の充実、児童クラブとの一体型の活動の検討などが挙げられる。

### (3) 広島市（人口 1,193,556人）

#### ア 学校給食センターについて

広島市では、五日市地区の学校給食センター3施設のうちの2施設は老朽化が進んでいることから、新たな学校給食センターの整備に当たり、計画着手から事業開始までに要する期間が短いこと、費用負担が軽減できること、また、民間の技術やノウハウを活用することにより新たな取り組みが期待できること等を理由に民設民営による学校給食センター（以下、「新センター」という。）の整備を行うこととした。事業者は、プロポーザル方式により決定し、平成29年4月から稼働して1日に約9,000食の提供を行っている。残りの1施設についても、耐用年数に達する平成35年度をめどに廃止し、新センターに移管する予定となっている。

新センターは、食材の入荷から製造・出荷までの全ての工程で危害を予測・防止するための重要管理点を特定し、継続的に監視・記録ができ、異常が確認されたらすぐに対策を講じ解決するシステムを導入するなど、全国でも有数のHACCP支援認定工場に認定されている。また、食物アレルギーへの対応については、専用の調理室と調理員を配置する体制を整えており、除去食による対応を行っている。

事業者は、農業者等も経営参画する6次産業化事業体であり、地元農家や近隣市町の農家から学校給食用の野菜を直接調達し、調理を行っている。広島市は、この取り組みを地産地消推進のモデル事業として「広島広域都市圏発展ビジョン」に位置づけ、学校給食への地元食材の活用促進を図っている。さらに、新センターを活用して高齢者施設への療養食調理の提供なども計画しており、このことによる新たな雇用創出や地域経済の活性化も期待されている。